

～共に創る とちぎの明日～

初心

2024年盛夏号

令和6年8月発行
年2回刊

題字/福田富一 書

<発行所>

福田富一
暮らしと政治研究所

〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028 (633) 1111
http://www.tomikazu.com

「あと一踏ん張りすることにしました」

美しい自然、誇れる歴史と文化、豊かな食、勤勉実直な県民性を持って、栃木の力を伸ばし新たな栃木の魅力と価値を創ります。

栃木県知事

福田富一

子どもたちが、若者が、高齢者が元気に暮らす、新しい日本のふるさと栃木の創建にあと一踏ん張り致しますので旧に倍して御支援御協力をお願い申し上げます。



《県政のビジョン》

- (1) 5期20年の蓄積をいかして、人の命や守るべきすべての命を守ります。
- (2) 政治生活40年の経験を活かし、過疎化や人口減少問題を克服して未来に希望の持てる栃木の姿を示します。
- (3) 外部人材を更に活用し県庁の行政能力を高めます。これらの考えを基本として今後必要となる施策事業をまとめました。

《未来への投資》 とちぎの挑戦2024

- ①「人への投資」と少子化トレンドの反転
学力向上や教育環境の整備を通じた「人への投資」を積極的に行います。さらに、結婚・妊娠・出産、子育てまで切れ目ない支援による人口減少対策を展開して少子化トレンドを反転させ、すべての人が輝く「人づくりとちぎ」を目指します。
- ・官民連携による栃木県人口未来会議(仮称)の設置
- ・グローバル時代に対応する英語力の強化など一貫した国際教育の推進
- ・とちぎ結婚応援企業・団体の登録を促進し、組織内結婚サポート11万人の登録推進
- ②「女性・若者の活躍」を全力応援
G7男女共同参画・女性活躍担当大臣会合の成果を活かし、男女

- が共に輝ける社会づくりを進めるとともに、地域課題の解決に取り組む若者をサポートするなど、「女性・若者活躍とちぎ」を全力で推進します。
- ・女性幹部職員の更なる登用及び女性活躍推進フェロー(仮称)の設置
 - ・民間と連携した女性活躍応援基金の設置
 - ・若者の意見を反映した政策を推進する「とちぎ若者未来会議(仮称)の設置
 - ・若者の地域貢献活動を支援する「とちぎ若者応援バンク(仮称)」の設置
- ③「健康・安心なとちぎ」の実現
新型コロナウイルス対策の経験を踏まえ、医療・福祉の体制を整備します。併せて、防災・減災対策や暮らしの安全を推進し、「健康・安心なとちぎ」を実現します。
 - ・高度救命救急センターなど救急医療提供体制の充実強化
 - ・地域医療構想を踏まえた県立病院施設の再整備
 - ・国と連携した災害時の首都機能のバックアップ基盤の強化
 - ・カスタマーハラスメント防止条例(仮称)の制定
- ④「稼ぐ力」を伸ばして更なる「豊かな県」へ
先端産業の企業誘致、農林業の成長産業化、インバウンドなどの観光誘客に取り組むことで、「稼ぐ力」を伸ばし、一人ひとりが豊かさを実感できる、更なる「豊かなとちぎ」を目指します。
 - ・特定重要物資の安定供給確保に資する半導体・蓄電池関連企業等の誘致
 - ・情報産業など次世代産業の

- 育成
・宿泊施設等におけるAI、IoTの導入促進など観光産業におけるデジタル化の支援
 - ・スマート農業・スマート林業の加速化による更なる生産力や経営力の強化
 - ・新モビリティによる奥日光地域へのアクセスの強化
- ⑤「X(トランスフォーメーション)」で「とちぎの未来創造」
デジタル・グリーン(環境)・ローカル(地域)、3つの分野で「変革」を推し進め、持続可能な明日につながる「未来創造とちぎ」を実現します。
 - ・つながる・ながれる・機能ひろがるスマートシティの推進
 - ・市町窓口DX(書かない、待たない、回らない、行かない)の伴走支援の強化
 - ・次世代型太陽電池(ペロブスカイト)など新たな再生可能エネルギー技術の導入促進
 - ・誰もが安全・安心・快適に移動できる公共交通ネットワークの充実
 - ・LRTの西側延伸への支援及び東武宇都宮線との連携による公共交通の広域ネットワーク化
 - ・植樹400年となる「日光杉並木街道保存・活用ビジョン(仮称)」の策定
 - ・施策の推進に向けた県と市町の合意形成のルール化
- これらの施策事業を推進し、未来に夢や希望の持てる栃木を築くため、後援会活動を活発化し、新たなステージで一杯働けるよう頑張っ参りますので、尚一層のお力添えを宜しくお願い致します。

未来への投資

夢や希望の持てる栃木へ



協定書を交わした金井隆典慶応大学医学部長(右)と福田知事

慶応大学医学部は県出身の高校生を対象に、卒業後に県内の医療機関で勤務することを条件に入学する「地域枠」を設けると発表した。慶応医学部が地域枠を導入するのは本県が全国初で唯一。

医学部の定員は1学年110人。うち付属校からの進学を除く66人が一般選抜の定員でここに地域枠1人を設ける。

金井隆典医学部長らが7月25日に県庁を訪れ、福田知事と地域枠創設の協定を締結した。福田知事は「医師の地域偏在の解消に地域枠をはじめ、修学資金制度を活用して地域医療を担う医師の養成に取り組むことが不可欠。慶応大学の地域枠の設置により、高度医療人材を確保し地域医療の充実を果たすことができる」と感謝した。



自治医大の本県枠で入学した6人と独協医大の県地域枠で入学した10人と懇談する福田知事＝7月23日県庁

とちぎ企業立地・魅力発信セミナー

県は7月23日、本県への立地を検討する企業を対象にした「とちぎ企業立地・魅力発信セミナー」を東京都内のホテルで開催した。首都圏な



福田知事らが本県の優れた立地環境をPRしたセミナー＝7月23日、東京都新宿区

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていたいただきます。

慶応大学医学部は県出身の高校生を対象に、卒業後に県内の医療機関で勤務することを条件に入学する「地域枠」を設けると発表した。慶応医学部が地域枠を導入するのは本県が全国初で唯一。

地域枠は県が入学金と授業料を修学資金として貸与する制度で、大学卒業後の14年間のうち県内の医療機関で通算9年勤めれば返済を免除する。選抜方法は一般入試と同様で、現在の高校2年生の受験時から適用する。

将来的に県内の地域医療に携わることになる自治医大と独協医大の1年生16人が7月23日、県庁で福田知事を表敬訪問した。学生たちは目指す医師像や地域医療への思いを語り、福田知事は「多くの県民が期待している。今の気持ちを忘れず勉学にまい進してほしい」と激励した。

がん対策を推進するため県は8月27日、米製薬大手ファイザーと連携協定を締結した。同社によると、都道府県とがんに関する協定を結ぶのは初めて。

福田知事は交通アクセスの良さや土地の安さ、住みやすさに加え、半導体関連企業の誘致・定着へ向け本年度から補助制度を強化したことなどを紹介した。その上で「企業の皆さまのコンシエルジュとして、さまざまな課題にきめ細かにワンストップで対応する」と強調した。

慶応大医学部に栃木枠

県が修学資金貸与

地元枠入学16人

知事を表敬訪問

県と米ファイザー

がん対策推進連携 都道府県初の協定



講演する福田知事＝18日午後、宇都宮市内

福田知事は1月18日、宇都宮市内で開かれた「しもつけ21フォーラム」(下野新聞社主催)で講演し、県内企業へ就職する大学生らの奨学金返還支援について、現行では対象業種を、製造業、卸売業・小売業、情報通信業、宿泊業としているが、新年度からは公務員を除く全業種に拡大すると表明。奨学金返還を支援する「とちぎ未来人材応援事業」は2016年度から始まり、基金を原資に助成している。県内に就職した大学生と

大学院生、短大生、高等専門学校生、専門学校生に、就職後1人当たり計70万～150万円を助成する。累計の支給決定者は69人。

知事はとちぎ少子化対策緊急プロジェクトの一環として対象業種を拡大する考えを示し、「企業の皆様にも基金への寄付をお願いしたい」と協力を求めた。

さらに、半導体関連企業の誘致や、日光杉並木植樹400年に向けたPRにも力を入れる考えを示した。

福田知事は米国インディアナ州のエリック・ホルコム知事からサミットへの参加要請を受け、5月21日～26日の日程で米国訪問。国際経済課長ら県職員3人が同行した。

県とインディアナ州は1999年姉妹都市となった。福田知事は2017年6月に同州を訪問。経済交流拡大を目的として県産品をトップセールスしたほか、同州知事とも会談し意見交換した。

福田知事は「グローバルエコノミックサミット(GES)

2024」のオープニングプログラムで登壇。同州との協定締結から25周年を迎えることを踏まえ「30周年に向けさらに友好関係を深めていきたい」などとスピーチ。エリック・ホルコム州知事らとの会談では、今後も友好関係の発展に取り組むことを確認した。

県と学術交流促進に関する同意書を締結するパデュー大学では、交流継続を確認したほか、宇都宮大との交流促進なども要請した。



GESでスピーチする福田知事＝24日午前、米インディアナ州

今回の訪米について福田知事は「25年間積み上げてきた関係をさらに深めていくことを確認でき、多方面に対しても本県のPRを行えた」と語った。

しもつけ 21フォーラム

奨学金返還支援 全業種に

米国・インディアナ州訪問



全国知事会災害対応訓練に参加する福田知事。5月29日、栃木県庁



初めて開催された地域脱炭素に関する国と地方の意見交換会（左側手前から2人目が福田知事、右側手前から2人目が伊藤環境相）＝27日午前、環境省

地域脱炭素巡り議論 環境相らと意見交換会

環境省は5月27日、地域脱炭素をテーマに地方自治体の代表者との意見交換会を初めて開いた。全国知事会脱炭素・地球温暖化対策本部長の福田知事らが参加し、伊藤信太郎環境相らと意見交換した。

意見交換会は冒頭を除き非公開で行われた。伊藤環境相は、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現に向けて「地域脱炭素の推進は重要な施策の柱の一つだ」と強調。

脱炭素の財源確保を 全国知事会オンライン会議

全国知事会脱炭素・地球温暖化対策本部会議が7月3日、オンラインで開かれ、本部長の福田知事が参加

地域脱炭素に関する有識者検討会を6月に設立することを明らかにした。福田知事は会合終了後、報道陣の取材に対し、地域と共生した再生可能エネルギーの推進や、地域脱炭素にかかる財源の確保などを国に要望したと説明。「今後も意見交換をしながら、脱炭素に向けて国・地方一体となって取り組んでいく」と話した。

◇1月4日 オンラインで訓示／「栃木県から国を動かしていく気概を持つて、積極果敢な挑戦をお願いしたい」。

◇1月5日 年頭の記者会見／第2子の保育料無償化に向けた市町への助成、公立夜間中学設置を表明。

◇2月8日 県工業団地管理連絡協と企業が直面する課題や県の取組について意見交換する。

◇2月16日 道の駅もてぎで福島応援フェア／「県内25市町で応援の声を上げて行きたい」とあいさつ。

◇3月16日 県営風見発電所（塩谷町風見山田）で発電開始式／「2050年のカーボンニュートラル実現に向け、県庁率先の取り組みを加速させると期待している」。

◇3月30日 「県立みかも自然の家」開所記念式典／「生涯学習の振興に資する施設として末永く愛されるよう努めたい」と挨拶。

◇4月1日 新年度迎え訓示／「新しい感性や若いエネルギーを持った皆さんの力が必要不可欠。ポテンシャルを最大限に生かし、高みを目指してほしい」と激励。

◇4月19日 東京ガスの試験施設視察／全国知事会脱炭素・地球温暖化対策本部長として東京ガス横浜テクノステーションの脱炭素化技術を視察

「合成メタンが重要だと再認識する」
◇5月21日（26日）「グローバルエコノミックスミット2024」に参加するため米インディアナ州を訪問。

◇6月19日 「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム」大学生版／福田知事と帝京大生が県政課題で意見交換。

◇6月27日 栃木・小山・両毛地区ブロック別市町村長会議／栃木市で5市町長が防災や福祉など各市町の課題や取り組みについて意見交換する。

◇7月5日 那須・南那須地区ブロック別市町村長会議／那珂川町で5市町長が地域課題支援を要望する。

◇7月11日 東京栃木県人会に出席／「これからも全国に誇れるとちぎづくりを進めていきたい」とあいさつ。

◇7月29日 宇都宮地区ブロック別市町村長会議／上三川町で4市町長が行政課題について意見交換する。

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム

市貝町

宇都宮市

福田知事が県民と県政の課題などを話し合う「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム」が5月18日、市貝町役場多目的ホールで開かれ、町民ら49人が地域の課題について福田知事と意見交換した（左写真）。

同フォーラムは2005年から始まり20年目。今年は5回予定されており同町での開催が1回目となる。

前半は福田知事が少子化対策や移住支援など県政について報告。その後事前のアンケートで関心が高かった農林業振興策や公共交通の話題を中心に意見交換した。

した。温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの2050年実現に向け、脱炭素に関する財源の確保などを国に求める提言案をまとめた。

提言案には、窓ガラスなど多様な場所に折り曲げて設置可能な「ペロブスカイト太陽電池」など新たな技術開発の支援と社会実装の推進や、熱中症特別警戒情報を自治体や住民へ即時に一括で伝達するシステムの構築などを盛り込んだ。提言案は8月の全国知事会会議で議決後、関係省庁に提出する。



全国知事会の脱炭素・地球温暖化対策本部会議に臨む福田知事＝3日午前、県庁

7月13日、県庁東館で開かれた元気フォーラムには約60人が参加し、人口減少などについて意見交換した（左写真）。福田知事は冒頭、2023年度の本県の移住支援相談件数や工場立地面積が全国上位だったことに触れ「選ばれらるとちぎ、選ばれる宇都宮市になっている」と強調した。

参加者から多く寄せられた子育て支援に関する質問に福田知事は、今秋にも実施する第2子の保育料免除などを説明し、「子育て世代の経済的負担軽減を進めていく」と述べた。



安定的な栃木の発展に向けて！

福田富一知事6選出馬表明



決意をいたしました。命、政治生命ともにかけてそして初心に返って秋の戦いを進めてまいります」と語った。

その後に関いた記者会見で福田知事は「『総合力を発揮し県政を安定的に発展させてほしい』という期待の声に応えたいという思いを強くした」と出馬理由を明らかにした。

福田知事は6月21日、宇都宮市内で開かれた自身の後援会総連合会の緊急代表者会議に出席し、12月の任期満了に伴う知事選への立候補を正式に表明した。会合で福田知事は「はばかりながら、6選目の知事選に立候補することの

知事選出馬表明までの経緯

昨年末頃には「後進に道を空けるのも年長者の務め」と周囲に勇退する考えを伝えていた福田知事。年が明けてからは「『安定と継続も必要だ』という声が増しに高まり、

頑張れという人、潔く身を引けという人、様々な意見を日々いただいている」と状況の変化を語る。

福田富一後援会総連合会代表者会議が3月30日、宇都宮市内で約200人が出席して開かれ、船田元衆議院議員や自民県連幹事長の木村好文県議らが「福田県政を継続してほしい」などと相次いで知事に6選出馬を求めたほか、金子裕佐野市長や花塚隆志さくら市長が続投を要請。議事を

進行した同総連合会幹事長の板橋一好県議が正式な出馬要請として決議し、福田知事に6選出馬を要請した。

会議後に報道陣の取材に応じた福田知事は、在任期間や自身の年齢、政治家としてのエネルギーを含め、期待に応えられるかどうかを考え、判断時期を1〜2カ月後とした。



ゆりの会新年会



『福田家の茶の間』

連日の猛暑にもめげず皆様お変わりなくお過ごしになられたことと存じます。日頃より大変お世話になりました。誠にありがとうございます。

昨年10月の母に続き、今年3月には父が亡くなり、お通夜・告別式には多くの皆様にご弔問いただき、弔電やお供物等を賜りましたこと改めて御礼申し上げます。

初盆にもわざわざ実家（日光市木和田島）までお越しください、過分なお心遣いを頂き重ねて御礼申し上げます。十分なお構いも出来ませんでしたこととお詫び致します。

ところで、夫が知事選へ立候補することを決意しました。昨年暮れには次を託せる方にと、引退を決めていた夫でしたが、「続けてほしい」という声に後押しされての翻意でした。

年明けてから、結論を先延ばしして悶々としている夫に「『辞めます』とはっきり言えばそれで済むこと」という人もいました。夫が、本当に信頼している方々、応援して下さい。『続けて』



ほしい」と説得されたら、それを振り切って意思を通すこともできない、板挟み状態の夫の気持ちには良く理解できました。

ある新年会で参加者から、「ここに人たちはみんな知事に続けて欲しいと思つていますよ、もし知事がもう疲れたから辞めたいというのであれば尊重しますが、やるのであればみんな応援します」と言われ、私は「ありがとうございます。頭を下げました。行く先々で『辞めないで！』『続けて欲しい』と言つて頂けるのは大変光栄なことだと思つています。

夫は何事にも全力投球で絶対に手を抜かない人です。常に県民の皆様の目線で仕事をしてきました。そんな夫を知事として必要として頂けるのであれば、もうひと頑張りしてほしいと思つています。

「奥さんが大変でしょう！」と心配して下さいますが、夫が信任を得て全力で知事職を全うできるような、私も裏方で頑張っていきたいと思つてます。どうぞ皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

編集後記

福田知事がとちぎの明日』をスローガンに6選出馬を表明した。一時は引退を決意した福田知事。世界情勢が不安定な今だからこそ福田知事の経験と実績に基づく『安定と発展』が求められているのだと思う。どうぞご支援を！

◇福田富一後援会総連合会事務所
◇福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(6333)1111
FAX 028(6333)1110

『政治生活40年 感謝の集い』開催

福田知事の『政治生活40年 感謝の集い』が6月29日、JR宇都宮駅東口のライトキューブ宇都宮で開かれ（下写真）、本県関係国会議員や首長、県議、市町議、業界団体の代表者ら約1300人が出席した。

福田知事は1983年、宇都宮市議に初当選。県議、宇都宮市長を経て2004年12月に知事に就任し、県政史上最多の5期20年目を迎えている。

政治生活を「親の反対を押し切って政治活動を始め、妻の協力で12回の選挙を戦ってきた。後援会活動などを通じて多くの方の信頼を得ることに繋がった」な



どと振り返り、「40年間支えて下さった皆様にお礼申し上げる」と感謝した。